

長野・山梨の大学を知ろう!

～シリーズ：大学について知ろう (その9)～

長野・山梨両県の大学説明は、特殊な学部のある国立大学と、いつの間にか増えている公立大学についてするしかないでしょう。まずは長野県にある**信州大**。新入生全員が1年間松本で学んだ後、2年からはキャンパスが松本市(人文・経法・理・医)、長野市(教育・工)、上田市(繊維)、箕輪村(農)に分かれてゆく典型的な“タコ足大学”。中でも珍しいのが繊維学部(後述します)。一方、山梨県甲府市にある**山梨大**は教育・医(医学科はなんと前期日程がなく一般入試定員を全て後期でとる!)・工・生命環境の4学部しかありませんが、学内にワイン科学研究センターがあり、生命環境学部地域食物科学科ではワイン造りを専門的に学ぶことができます。両県にある公立大学の中で最も歴史があるのが1960年に開学した山梨県都留市にある**都留文科大**。1953年に県がつくった教員養成所が前身で、今でも国語や英語の教員を目指す学生が多い大学です。山梨県にはもう一つ甲府市に**山梨県立大**がありますが、こちらは県立の女子短大と看護大が2005年に合体してできたものです。一方、長野県にある公立大学は最近激増中。元々は駒ヶ根市にある**長野県看護大**(看護学部のみ)だけだったのですが、上田市にあった私立大学の**長野大**(社会福祉・環境ツーリズム・企業情報の3学部)が2017年に上田市を設置者とする公立大となり、2018年には東京理科大グループだった諏訪東京理科大が諏訪地域6市町村を設置者とする**公立諏訪東京理科大**(工学部のみ)となり、同じく2018年には長野県が**長野県立大**(グローバルマネジメント・健康発達の2学部)を長野市内に開学してしまったのです…。

以下の文章は**6年前(2014年)**に私が信州大繊維学部に行きに行ったときのことを書いたものです。オープンキャンパスも今年はWebばかりなので、これで信濃路の雰囲気を味わってくださいな。

SHINSHU UNIVERSITY Faculty of Textile Science and Technology

信州大学繊維学部に行ってきました…

夏休みに帰省しました(私の実家は長野県上田市にあります)。そのついでに、信州大学繊維学部(日本唯一の学部で全国的に見ても異色)を勝手に見学しちゃったので、その様子を報告します。

オープンキャンパスでなくてもアポなしでも大学見学は堂々としてしまえばよいのだ…

実は高校まで上田に住んでいながら信大繊維学部には一度も行ったことがありません。わかりづらい正門にやっと到着すると、私の車に大学職員らしき人が走り寄ってきて、なんと「高校の先生ですか?」と聞いてくるではありませんか。何で分かるの?今日は完全にプライベートで服装もTシャツ・短パン。う～ん不思議だ。ふと門のところを見て謎は解明。「北信越理科教育研究会長野大会」という看板が掲げられているのです。そこで「いいえ、見学に来ました」と答え、守衛さんからゲートを通るためのパスをもらい、ついにキャンパス突入です!

すぐに目についたのが古いけど立派な建物…講堂です。鍵がかかっている中には入れませんが、何とも風格があります。さらにどンドン中へ進んで



信州大学繊維学部の正門



繊維学部講堂は有形文化財に指定。今も卒業式などの儀式で使用!

事務室のある建物に到着した私は、きれいな事務のお姉さんにNさんと呼んでもらいます。Nさんは数ヶ月前、信大繊維学部の説明のために学校にやってきた大学職員のお兄さんです。私が来たことを知ったNさんが慌てて飛んできます。実は彼が学校に来たとき「夏休み中に見に行ってもいいですか?」と言ってあったのですが、まさか本当に来るとは思わなかったのでしょうか。こうして私はNさんの案内付きでキャンパスを見て回るようになりました。何事も凶々しく頼んでみることで(世間の人たちは特に受験生には優しいので諸君も是非!)

繊維学部は理・工・農・医+αの分野の融合学部だった…

繊維学部は「繊維・感性工学系」「機械・ロボット学系」「化学・材料系」「応用生物科学系」の4学系体制の教育プログラム(注)で行われており、“ファイバー工学”を基盤にした最先端科学技術を学べるらしい。その研究内容は多種多様で企業と共同研究している教授も多く、そのために数年前に建てられた「ファイバーイノベーション・インキュベーター(Fii)施設」には企業の研究室があり、学生は学内にいながらインターンシップを行うことが出来るとのこと。そして別の棟にはその成果を展示するスペースもあり、新素材のスポーツやロボティックウェアなどが並んでいます。もちろん伝統的な絹織物のための桑を栽培する畑も広がり(近くには牧場も持っており、羊の毛を刈り取る実習もあるとのこと)、その手前にある異様なコンテナが経済産業省の補助交付金を受けて開発したワサビ栽培の植物工場で、その屋根にある独自開発した太陽光発電によって動いているのだそうです。「信州大学には農学部があるのに何故繊維学部で植物工場を?」と聞くと、ウチには農学系だけでなく機械系や化学系など全ての教授がいるから、という答でした。つまりこの学部は新繊維開発だけでなく食物やロボットなど様々な研究が可能で、また工学部に比べて女子比率も高く(26%が女子)、そして就職率も高いでしょう(大学就職ランキングは理系全体5位、理工系だけだと1位。大学院進学率は約7割とのこと)。(注)4年前の学部改編により現在は「先進繊維・感性工学科」「機械・ロボット学科」「化学・材料学科」「応用生物科学科」の4学科体制となっています



完全制御型植物工場コンテナ

生協食堂での昼食…迷ったときはやっぱりアレだよ

Nさんと別れ、数年前にリニューアルされたという生協食堂へ。この日は前期のテスト中ということで、次々と学生が入ってきます。と言うことは早い決断が必要、というわけで「カツカレー!」と厨房のおばちゃんに思わず叫び(410円)、手前にあった「ポテト&コーンサラダ」(86円)を思わずトレーに載せたのでした。さて実食、ウツ、これは美味い。野菜を煮込んだまるやかさにはほどよい辛さがマッチしていて、学食のカレーとしては上位。カツもまあまあ合格点で大満足の昼食でした。

今回のお土産…「まんじゅう」がダメなら「くわりんとう」でどうだ!…フン!

生協の建物は「マルベリーホール」というこじやれた名前がつけられ(きっと誰もその名前を使っていないことは容易に想像できます)、その2階の売店で今回の土産を物色。「信大まんじゅう」の幟旗があったので「和菓子好きの息子にはこれだ!」と思い注文すると、「これは松本から取り寄せになります」と言われ断念。結局、クリアホルダー(75円)と「シャープペンシル」(86円)を購入。これだけでは「フン!」と言われそうなので、信大繊維学部の学生が商品開発した「くわりんとう」(体に良いという桑の葉のパウダーを入れたかりんとう。TVで紹介され人気となったらしい。390円)が帰りの高速のSAで売っていたので購入。ところがこの「くわりんとう」は全然美味しくなく、息子&カミさんに「フン!」と言われ結局ほとんど自分で食べるはめになったのでした…。

※2学期はいよいよ東京の大学を紹介します。乞御期待!